

# フェイクニュース共有と訂正に影響する要因の検討

○ 徐 映京 SEO, Youngkyoung

**Keywords** : フェイクニュース、デマ、共有意思、訂正意思、影響要因、交互作用

## 1 目的

本研究の目的は、既存のうわさ研究で研究されてきた影響要因（もっともらしさ、不安、驚き、曖昧さ、重要性、関連知識）を、フェイクニュースを対象とし、共有意思と訂正意思それぞれで検討することである。また、影響要因の間の交互作用を分析する。

## 2 方法

本研究では、日本と韓国におけるフェイクニュースに対してそれぞれの国の利用者を対象にアンケート調査を行った。日韓で共通して拡散したフェイクニュース及び各国独自のフェイクニュースを対象にして調査を実施し、実際に拡散したフェイクニュースに対する回答（もっともらしさ、不安、驚き、曖昧さ、重要性、関連知識、ファクトチェック知識、共有と訂正意思）を得た。本調査は2019年12月に日本と韓国においてウェブベースで行われた（日本と韓国それぞれ n=2060）。

## 3 結果

既存のうわさ研究で研究されてきた影響要因（もっともらしさ、不安、驚き、曖昧さ、重要性、関連知識）を設定し、要因間の交互作用を分析した。要因間の交互作用分析を通じ、共有及び訂正意思に与える直接的効果と間接的効果を分析した。その結果、影響要因に対する一定の結果を得ることができた。また、日本と韓国において異なる様相が確認できた。

## 4 結論

以上により、本研究では、既存のうわさ研究で研究されてきた影響要因（もっともらしさ、不安、驚き、曖昧さ、重要性、関連知識）を分析し、要因間の交互作用を探索した。フェイクニュースの共有と訂正意思に影響を与える要因を分析するためには、直接的効果と間接的効果を考慮した総合的な接近が必要であろう。なお、各国におけるメディア環境などによる様相の相違に関しては、今後更なる検討が必要である。

### 【主要参考文献】

Allport, G. W., & Postman, L. (1947) *The psychology of rumor*. Oxford, England: Henry Holt, 1947 南博訳 デマの心理学 岩波書店, 1952.